

労働安全衛生

安全な職場環境を確保することは、企業活動にとって最も重要なことです。当社では以前から独自の安全理念のもとに全社で積極的な安全活動を実施しています。

日本ペイントの安全理念

1. 安全なくして会社の繁栄なく、会社の繁栄なくして社員の幸せなし
2. 安全は企業活動の基盤であり、優れた業績の前提である
3. 安全管理の出発点は、人間愛と責任感にある
4. 安全管理の基本は、災害の未然防止と予防管理である
5. 防止できない人災はない。全ての人災はゼロにすることができる

※ここでいう安全とは衛生、防災、無公害を含めた広義のものを指す

2013年度の労働災害発生状況

2013年度の当社における労働災害発生件数は2件で、休業災害はありませんでした。職場での危険箇所の見直し活動を実施し、危険作業に対する意識の向上が、災害発生件数の減少に寄与したのではないかと思います。

労働災害の2件とも、機械上に置き忘れたペンを取り除く、あるいはブリキ板を

落としそうになったときに手を出したなど、咄嗟の行動によるものです。危険に対するさらなる意識向上に取り組みます。

2013年度の取り組み

2013年度は、2012年度の継続として、安全防災課長会議、安全衛生委員会を通じた安全衛生活動を実施しました。また、健康管理促進のための看護師とのコミュニケーション向上を目指した2ヵ月

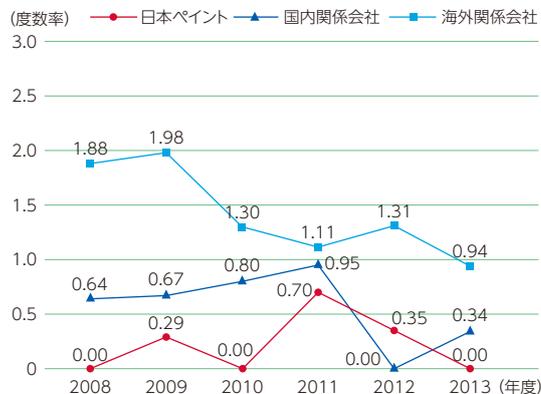
に1回の会議の開催などを実施しました。

しかしながら、2013年度の上期は、フォークリフトの操作ミスによる塗料の漏洩、建物の破損などが散発しました。そのため、下期初めに緊急で、①工場長から現場フォークリフト作業員（構内物流業者含む）への対策強化の宣言、②発生要因を加味したチェックリストによる運転手のセルフチェック、③フォークリフト運転手全員を対象として、上記の対策に基づく安全宣言などを実施しました。

■ 休業災害度率の推移



■ 日本ペイントグループの休業災害度率の推移



安全教育活動

2013年度は、従来からの入社直後の新入社員研修に追加して、新たに期中でのフォローアップ研修を実施しました。

新入社員研修の受講者は46名です。

期中でのフォローアップ研修では、ヒヤリ報告書の作成や自職場での危険な箇所の抽出などを事前課題として研修当日に持ち寄り、グループで議論を行い、ルールや感受性を向上させることの重要性の教育を実施しました。実際の危険な箇所については、研修終了後、自職場に持ち帰って対策と結果報告を指示しました。さらに、研修最後に各人が行動目標を宣言しました。

期中でのフォローアップ研修のアンケートでは、ほとんどの受講者が基本的な事項は理解できた、との回答を得ました。なお、危険発生のロジックについては、さらなる理解の向上と実行が課題となっています。

- 顧客への静電気安全講習・有機溶剤講習・防火安全講習
- 販売店・特約店の新入社員教育
- 販売店・特約店への安全・環境教育



「安全道場」(大阪事業所内に設置)で体感を重視した安全教育活動を行っています

海外関係会社への安全環境支援活動

当社グループの海外拠点への安全支援活動として、2013年度も引き続き「海外安全巡回」を開催しました。

この「海外安全巡回」は、1978年度から実施しており、2013年度は2014年3月24日から26日まで、連結子会社・亞洲工業(台湾)への安全巡回を実施し、ヒヤリングと現場巡回で安全活動状況の把握を行いました。

安全パトロールにマンネリ化が認められたので、アドバイスをを行いました。技術部門におけるブース、倉庫の5Sの不備など改善すべき項目は、現場トップによる即時の改善指示がありました。



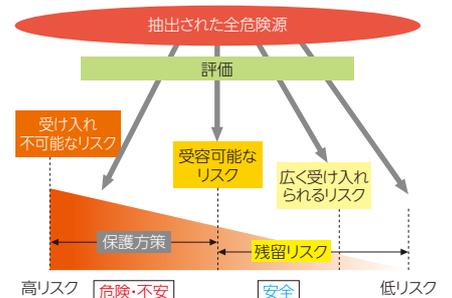
リスクアセスメント活動

現場における危険予知だけでなく、環境保全、労働安全、保安防災まで含めたリスクをいったん洗い出し、受け入れ可能かどうかを判断するリスクアセスメント活動を2011年度に開始しました。

定常作業については、2013年度末までに、すべての工場でリスクアセスメントを実施完了しました。

その中で、まず2012年度に挙げた重要リスクの危険源に対して、優先的に対策を検討しました。暫定対策は即実施し、インターロックの設置など、投資の検討を要するものが5件、投資せずに恒久対策でリスク低減すべきものが4件、その他、要検討のものが7件あり、順次、対策を実施中です。

■ リスクに基づく安全の考え方



危険や対策を想定した抽出ではなく、職場におけるすべての危険源を抽出し、その危険度を評価していく